

# 「子供を持つ事」について： アメリカ人・日本人大学生の意見 比較

ジョシュア・ボールドウィン

アドバイザー：

齋藤-アボット佳子教授

関根繁子教授

# 概要

- 研究の重要性
- 研究質問
- 研究背景
  - 日本・アメリカの出生率の比較
  - 出生率に影響を及ぼしている要因
  - 家庭を作る決意に政府が及ぼしている影響
- 研究方法
- アンケート調査の結果
- 結論
- 参考文献
- 謝辞

# 研究の重要性

- 日本に住んでいた時、自分は色々な家族と接して、色々な家庭を見ることが出来た
- 帰国してから短大でアメリカと日本の出生率が減少していることを知り驚いた
- 大学生は子供を持つ事についてどのような意見をもっているのか、出生率の減少は  
どうして起きているのかを研究したいと思った

# 研究質問

1. 大学生は子供を持つ事についてどのような意見を持っているのか。
2. 日米の大学生の子供を持つ事についての意見には何がどのように影響しているのか。

# 研究背景

- a) 日本・アメリカの出生率の比較
- b) 出生率に影響を及ぼしている要因
- c) 家庭を作る決意に政府が及ぼしている影響

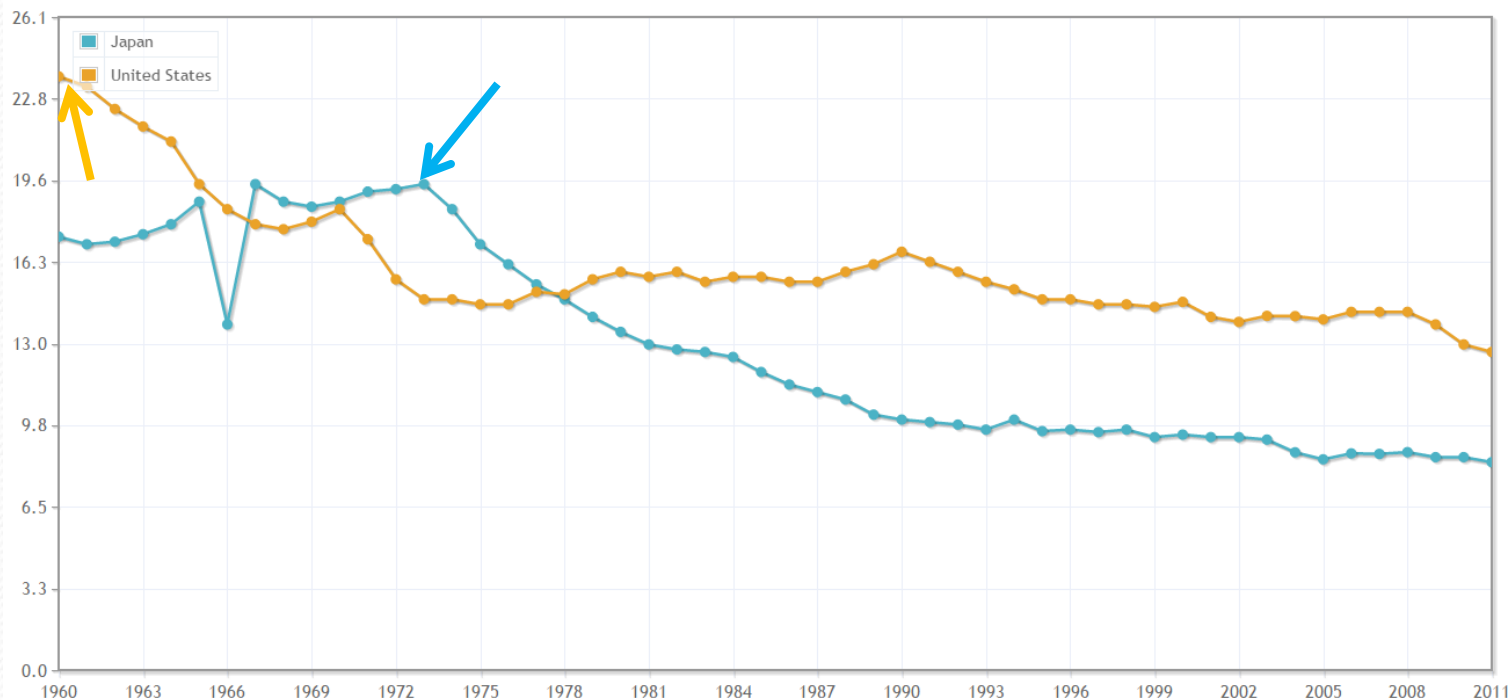
# 日本・アメリカの出生率の比較

日本とアメリカの粗出生率  
人口の1000人に対する出生数の割合

1973年の  
1.96万から  
日本の粗出生率  
が徐々に減少  
している

アメリカにも  
60代から減少が  
起こっている

- 日本
- アメリカ



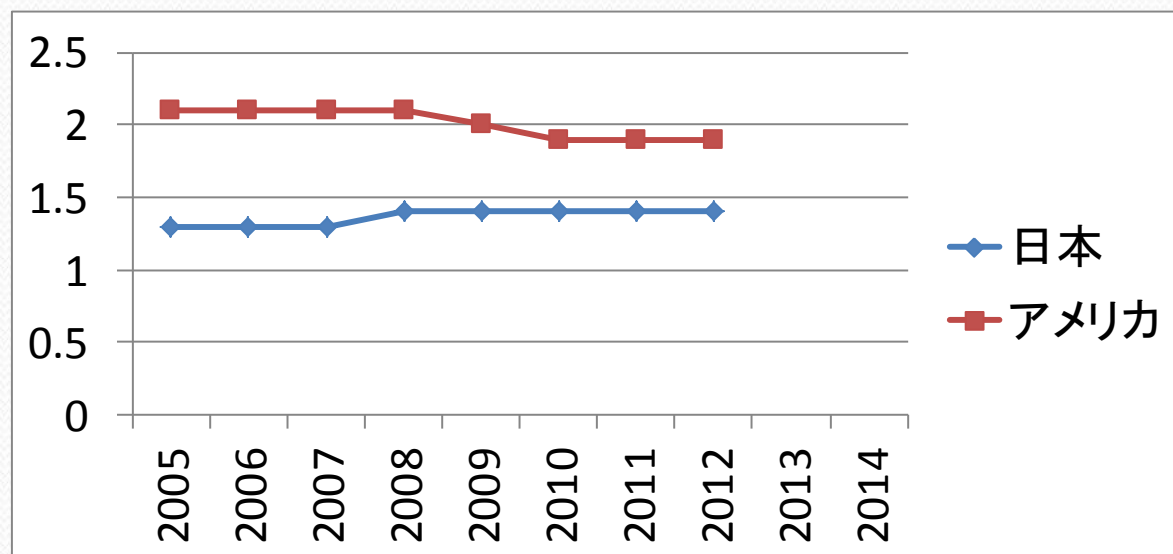
# 日本・アメリカの出生率の比較

合計特殊出生率(1人の女性が生涯に何人の子供を産むかを表す数値)

一般的に、国が自分の人口を維持するには2.1の合計特殊出生率が必要である(Hales, 2014)

## 近年の特殊出生率

- 2008年にアメリカが2.1より降下
- この10年あまり日本は2.1より下がっている



# 出生率に影響を及ぼしている 要因: 雇用

- 「M」形の傾向:
  - 日本人女性の場合、出産前は雇用率は高いが、子育ての間雇用率が減少し、子供の入学後雇用率がまた上がる(その場合たいていパートで前より低い給料)

働いている母親: (2007年からのデータ)

日本	アメリカ
22% 幼稚園児持って働いている母親	60% 幼稚園児持って働いている母親
52% 中、高校生を持ちながら働いている母親	59% 中、高校生を持ちながら働いている母親

二回目の「ピーク」は「最初のピークより数字的に低いだけでなく、仕事の内容も悪くなる」

(Holloway, 2010, p. 171)



# 出生率に影響を及ぼしている 要因: 雇用

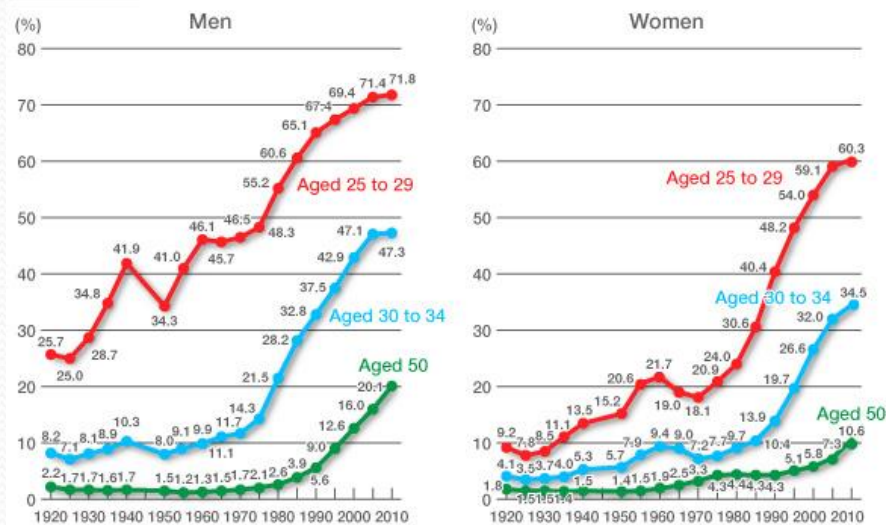
- 社会的にはまだ男性は仕事をし、女性は子供を産んだら子育てに専念することを期待されている  
(Holloway, 2010)
  - これが女性の結婚年齢を30代後半まで上がらせている理由の一つ  
(Rosenberger, 2013 p. 80)
- 結婚をした女性はある一定期間子供を産まない方がいいという認識がある。
  - 妊娠すると仕事をやめるケースが多い  
(Holloway, 2010)

# 出生率に影響を及ぼしている要因: カップルの減少

- 夫婦が持っている子供の数が減っているのが問題だけでなく、結婚しないか高年齢で結婚する日本人が増加している
- 結婚を前提にお付き合いをしない人も多くなっている
- 恋人がいる確率が1990年から40%以下だったが、2010年には男性の割合が25%、女性の割合が35%まで減少した
  - 若い日本人には愛は結婚につなげて、そこから子供を持つと言う意識は今でも強い

(山田, 2012)

Figure 1 Unmarried Rates by Age



# 家庭を作る決意に政府が及ぼしている影響

## 日本

- 日本政府は2009年に、親に子供が15歳になるまで、毎年33万円の補助金を提供する提案した
  - 子供を持つ事をもっと魅力的なものと思わせるため、公立保育園の増加、授業料免除なども提案した
  - しかしこの補助金はある一部の家庭しか助ける事が出来ない (Wakabayashi, 2009)

## アメリカ

- 「政府はアメリカ人に『欲しくない』子供を持たせる事が出来ないが、『欲しい』子供を持てるように手助けは出来るはず」 (Hales, 2014)
  - 17歳以下の子供を持つ親にはもっと大きい税額控除をあげて、社会保障にお金を支払う必要を免除するという提案はこれから子供を持つ夫婦には影響があるだろう

# 研究方法

- 回答者計：47名の大学生
  - 24名の日本人大学生
    - 女性：15名、男性：9名
  - 23名のアメリカ人大学生
    - 女性：9名、男性：14名
- オンラインでのアンケート (Google フォーム)
  - 日本語のアンケート
  - 英語のアンケート

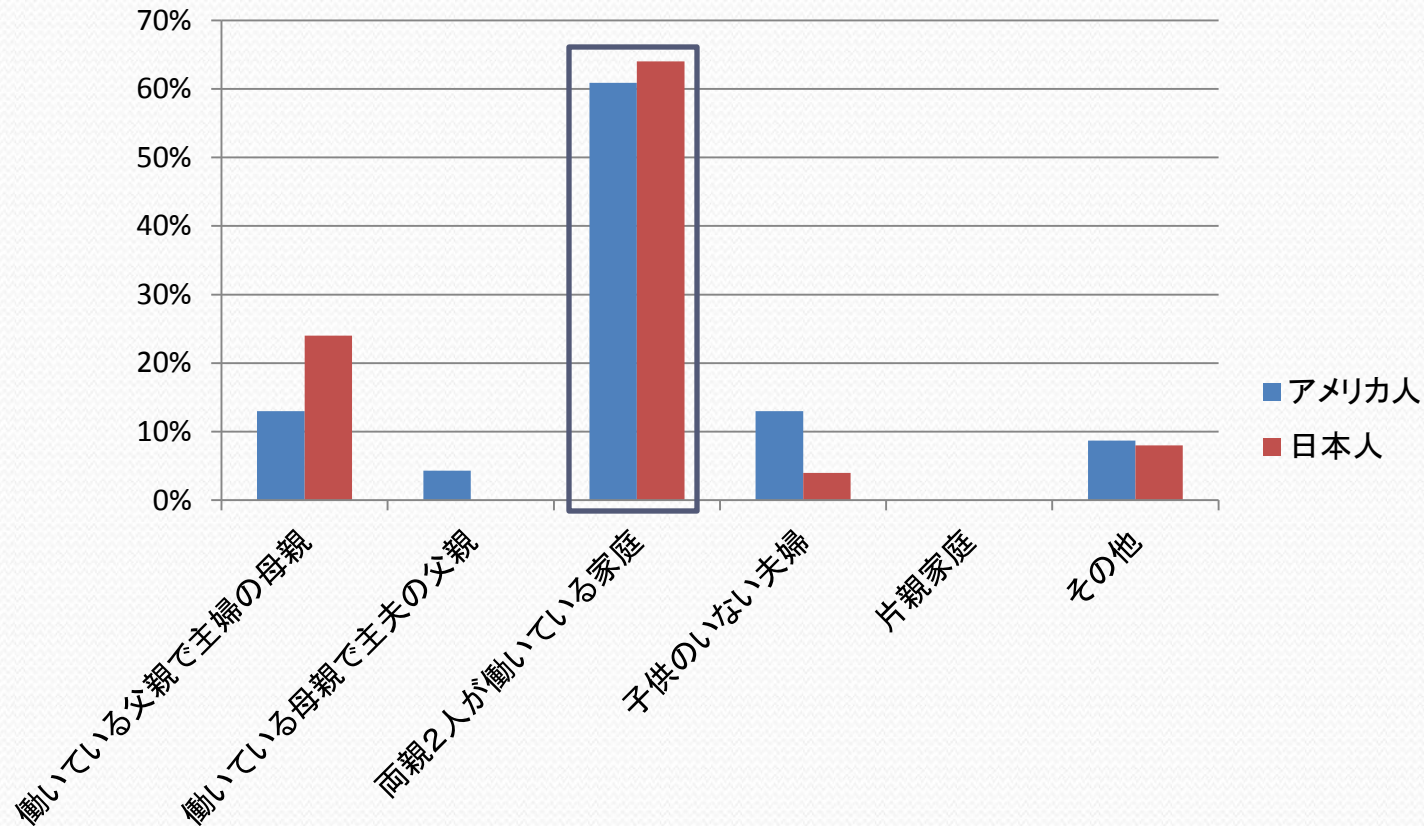
# アンケート調査の結果

研究質問<sub>1</sub>:

---

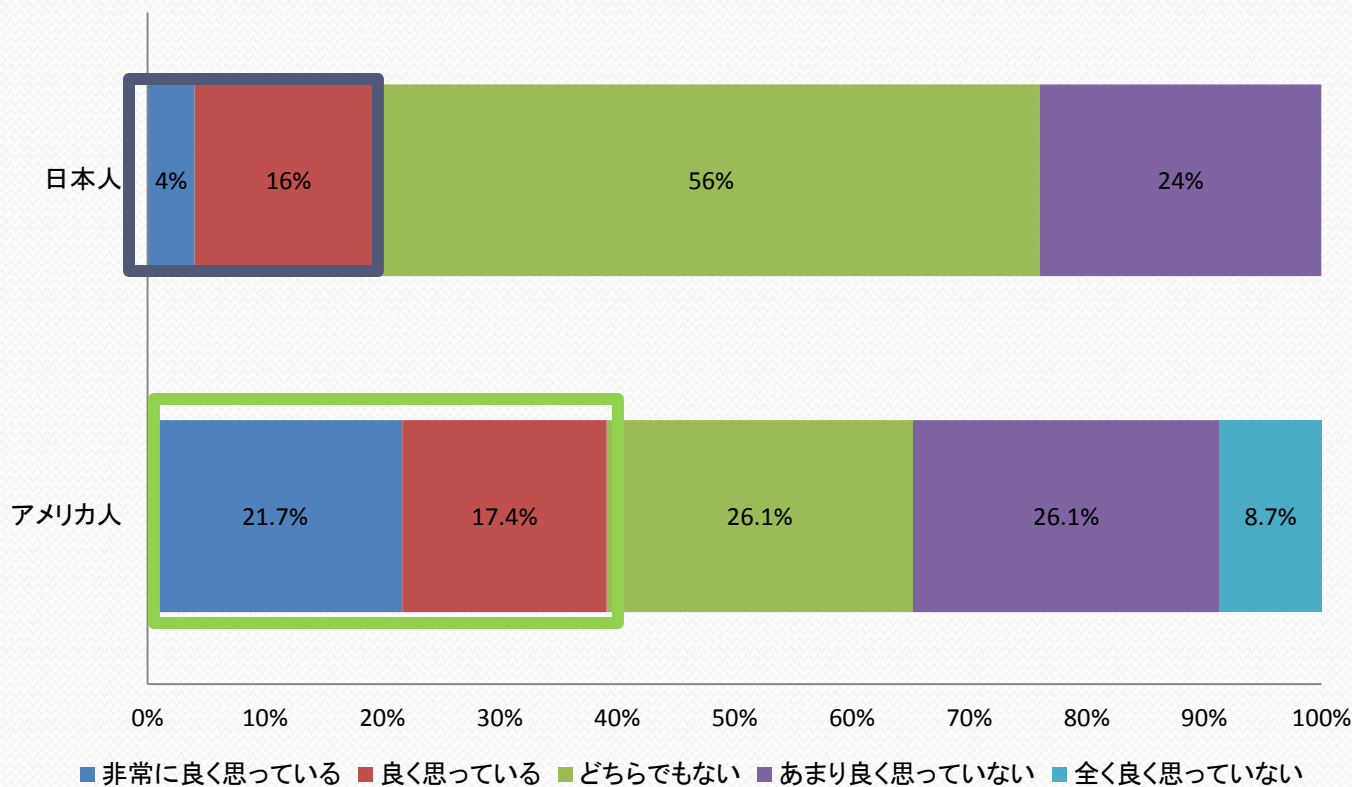
大学生は子供を持つ事についてどのような意見を持っているのか。

# 理想的な家庭



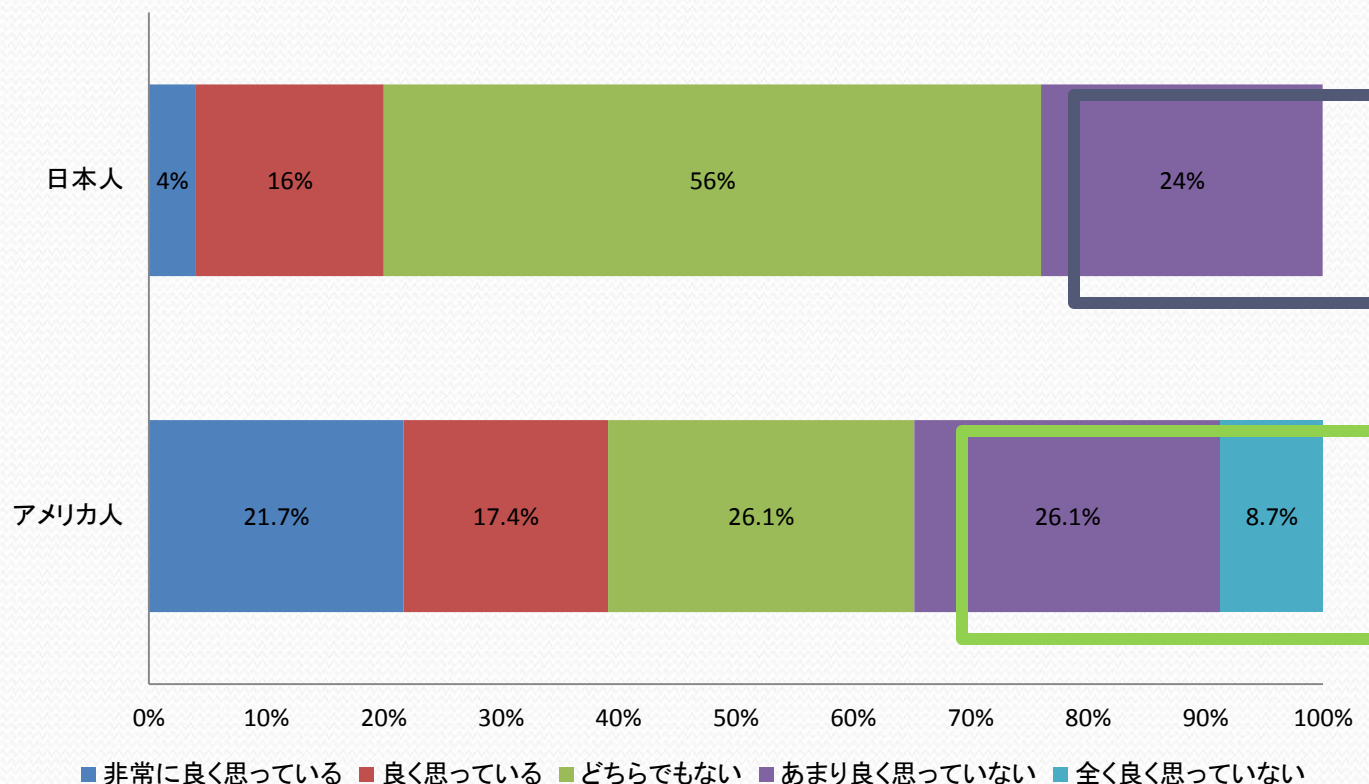
アメリカ人・日本人の大学生両方とも理想的な家庭を「両親2人が働いている家庭」として選んだ

# 若い親(10代-20代半ば)に対しての意見



若い親の事を良く思っている日本人は20%、アメリカ人は約40%と低い

# 若い親(10代-20代半ば)に対しての意見

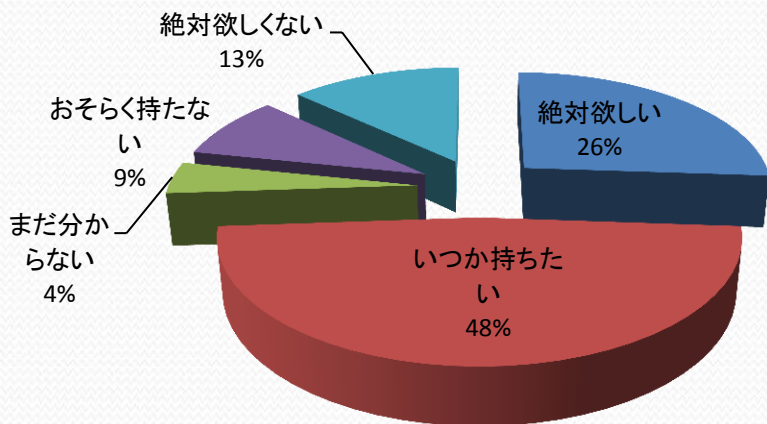


アメリカ人、日本人共約25%はまだ若い親に対して「あまりよく思っていない」と答え、「全く良く思っていない」と思っているアメリカ人もいた

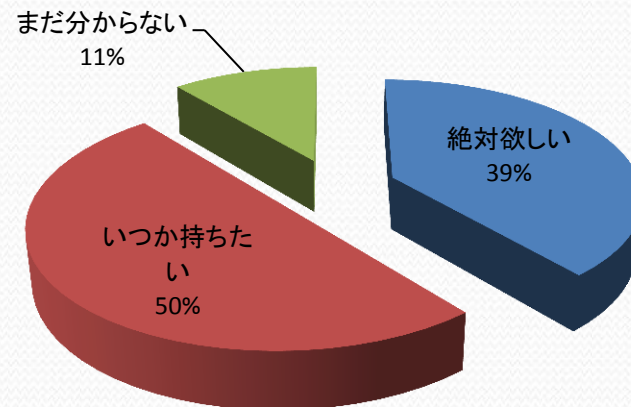


# 大学生は子供を持ちたがっているのか

アメリカ人



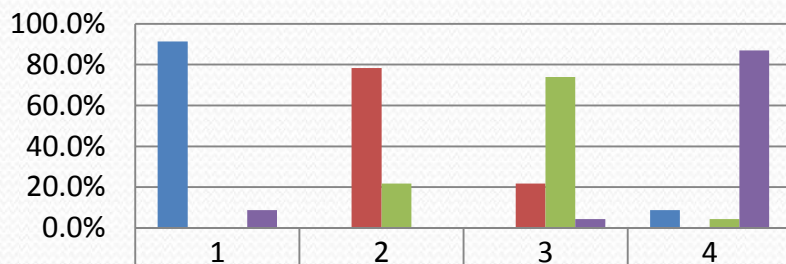
日本人



日本人回答者の89%とアメリカ人の70%は子供を欲しがっていて、  
22%のアメリカ人回答者は子供を持たないと答えた

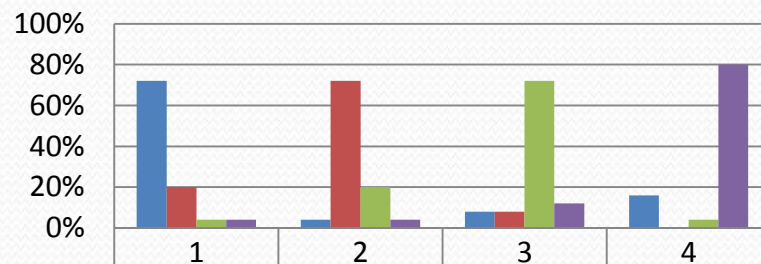
# 現在の最優先順位

アメリカ人



	1	2	3	4
■ 学校	91.3%			9%
■ 仕事		78.3%	21.7%	
■ 結婚		21.7%	73.9%	4%
■ 子供を持つ事	8.7%		4.3%	87%

日本人

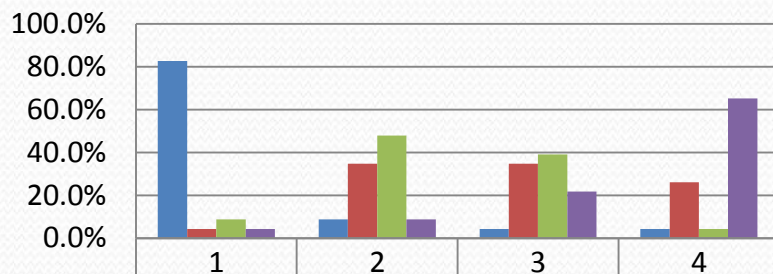


	1	2	3	4
■ 学校	72%	4%	8%	16%
■ 仕事	20%	72%	8%	
■ 結婚	4%	20%	72%	4%
■ 子供を持つ事	4%	4%	12%	80%

大半のアメリカ人・日本人が学校、仕事、結婚、子供を持つ順での優先順位だった

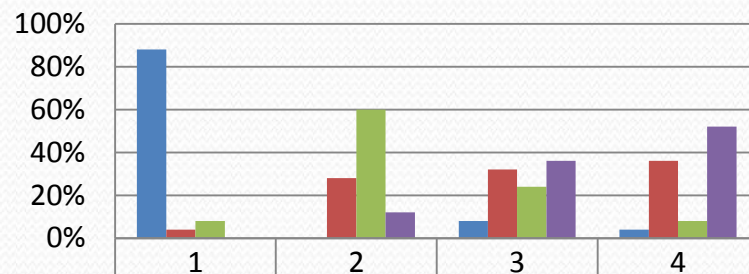
# 卒業後の優先順位

アメリカ人



work	82.6%	8.7%	4.3%	4.3%
promotion	4.3%	34.8%	34.8%	26.1%
marriage	8.7%	47.8%	39.1%	4.3%
having children	4.3%	8.7%	21.7%	65.2%

日本人



work	88%		8%	4%
promotion	4%	28%	32%	36%
marriage	8%	60%	24%	8%
having children		12%	36%	52%

日本人・アメリカ人共が仕事を最優先とし、子供を持つ事を最下位として選んだ

# 研究質問1まとめ

- 日本には社会からの「男は仕事をし、女は子育てに専念する」という期待はあるのに、両国共大学生は「両親2人が働いている家庭」を理想的な家庭として考えている
- 日本人は10代から20代で親になる事に対してはよく思っている人はあまりいないが、アメリカはその逆だった
- 出生率の減少があるにもかかわらず子供は欲しくないと答えた日本人はいなかった
- 両国の回答者は家族を持つには仕事が必要だから仕事か学校を最優先にし、子供を持つ事を最下位にしている

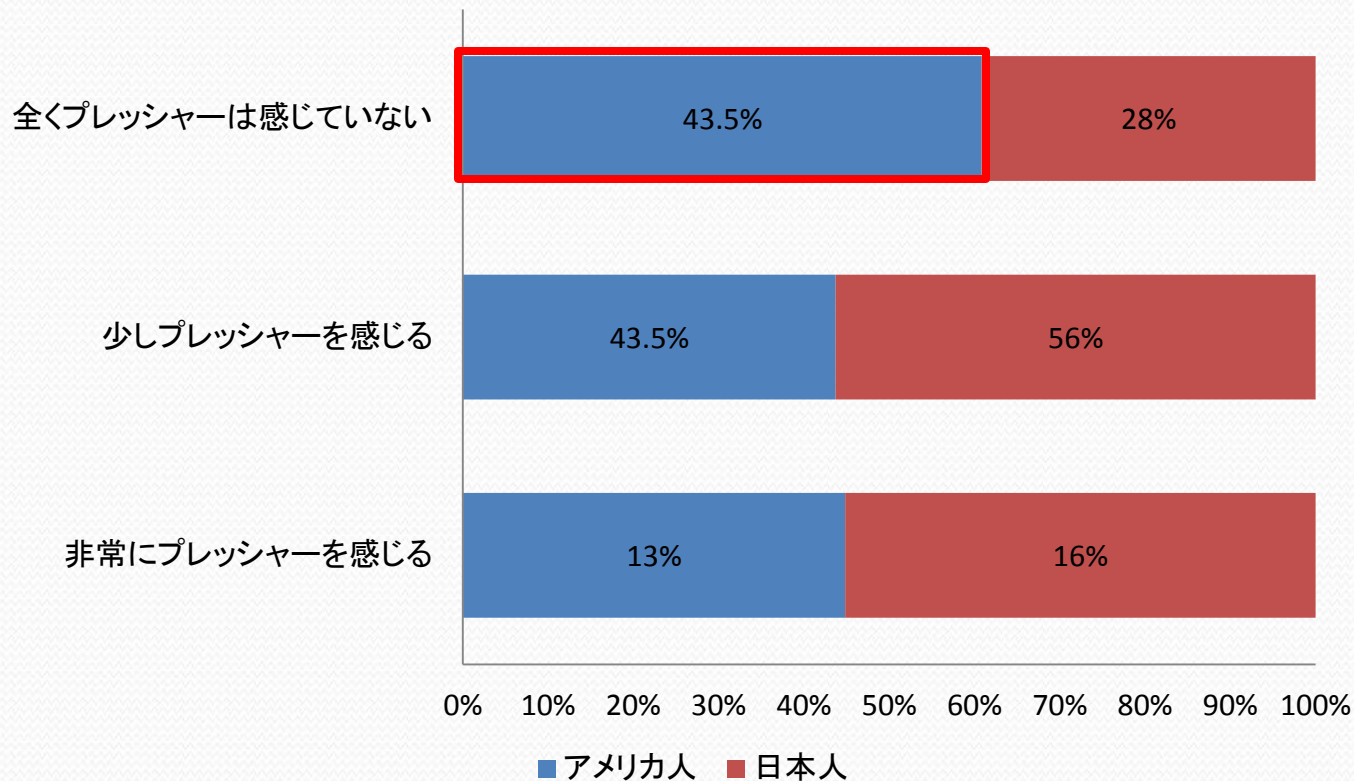
# アンケート調査の結果

研究質問<sub>2</sub>:

---

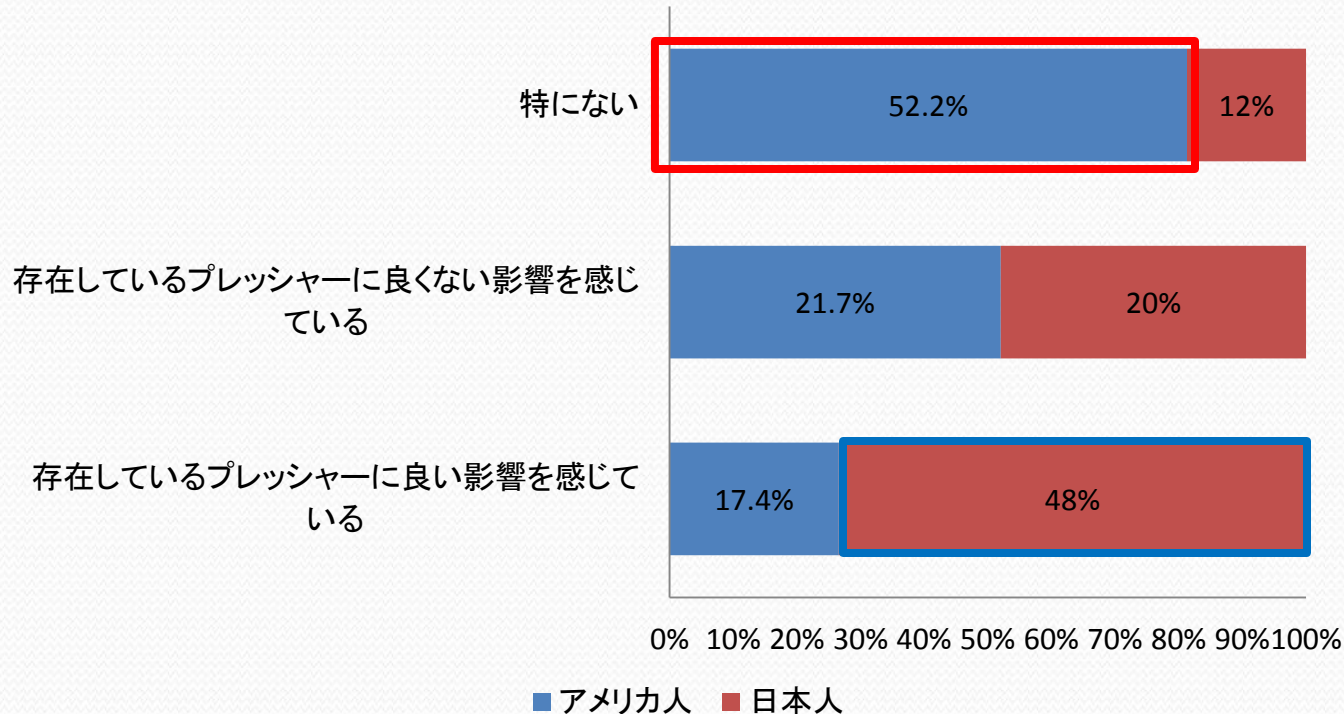
日米の大学生の子供を持つ事についての  
意見には何がどのように影響しているのか。

# 子供を持つ事にプレッシャーを感じているのか



両方共少しプレッシャーを感じているようだが、アメリカ人の半分の人は全くプレッシャーを感じていないようだ

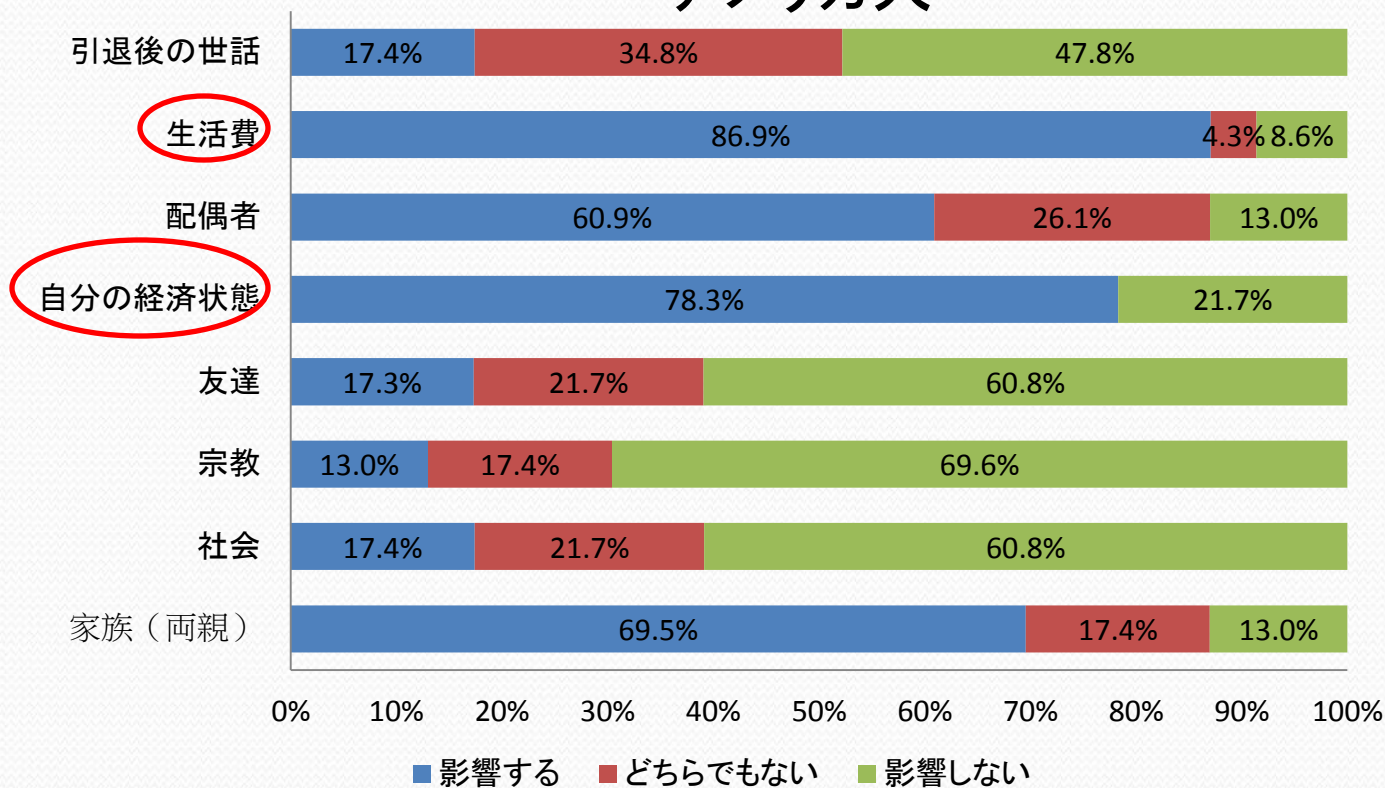
# 子供を持つ事へのプレッシャーが自分が子供を持つ事にどのように影響しているか



半数以上のアメリカ人は子供を持つ事へのプレッシャーは自分が子供を持つ事に対する考えに何の影響も感じてないが、プレッシャーを感じている日本人のほとんどがプレッシャーは自分が子供を持つ事に関して良い影響を与えていると感じている

# 子供を持つ事に関する意見に及ぼす要因

## アメリカ人

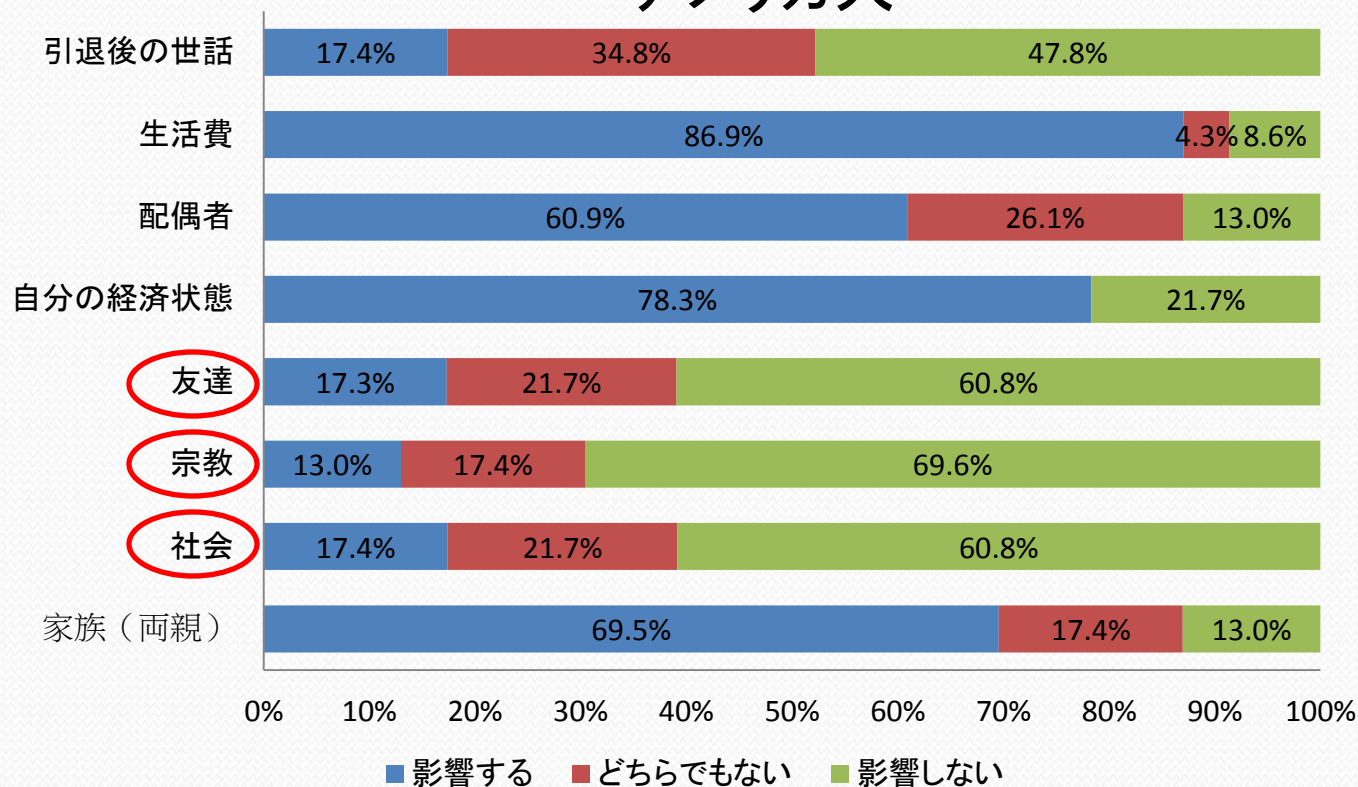


経済的な要因が一番影響を与えている。社会、宗教、と友達はほとんど影響がない



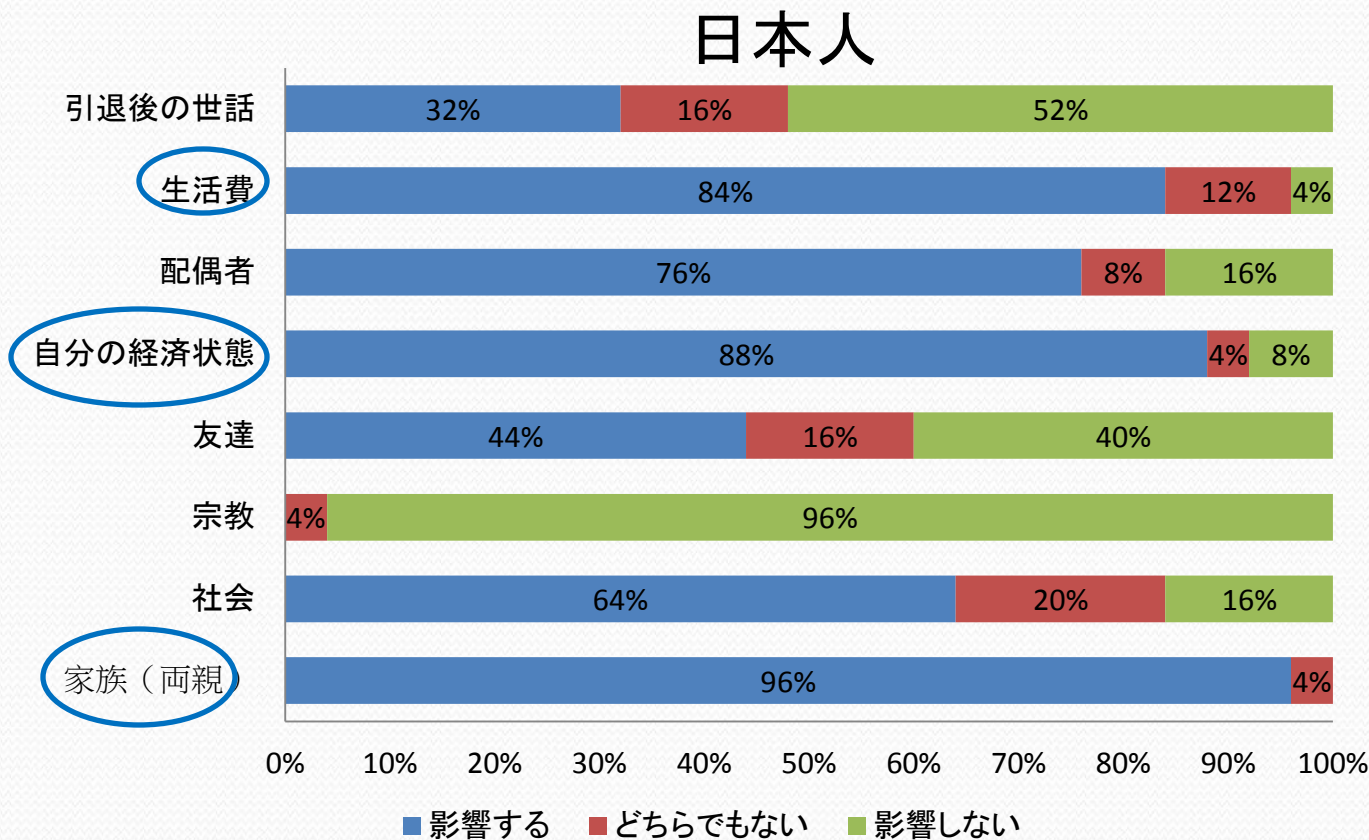
# 子供を持つ事に関する意見に及ぼす要因

## アメリカ人



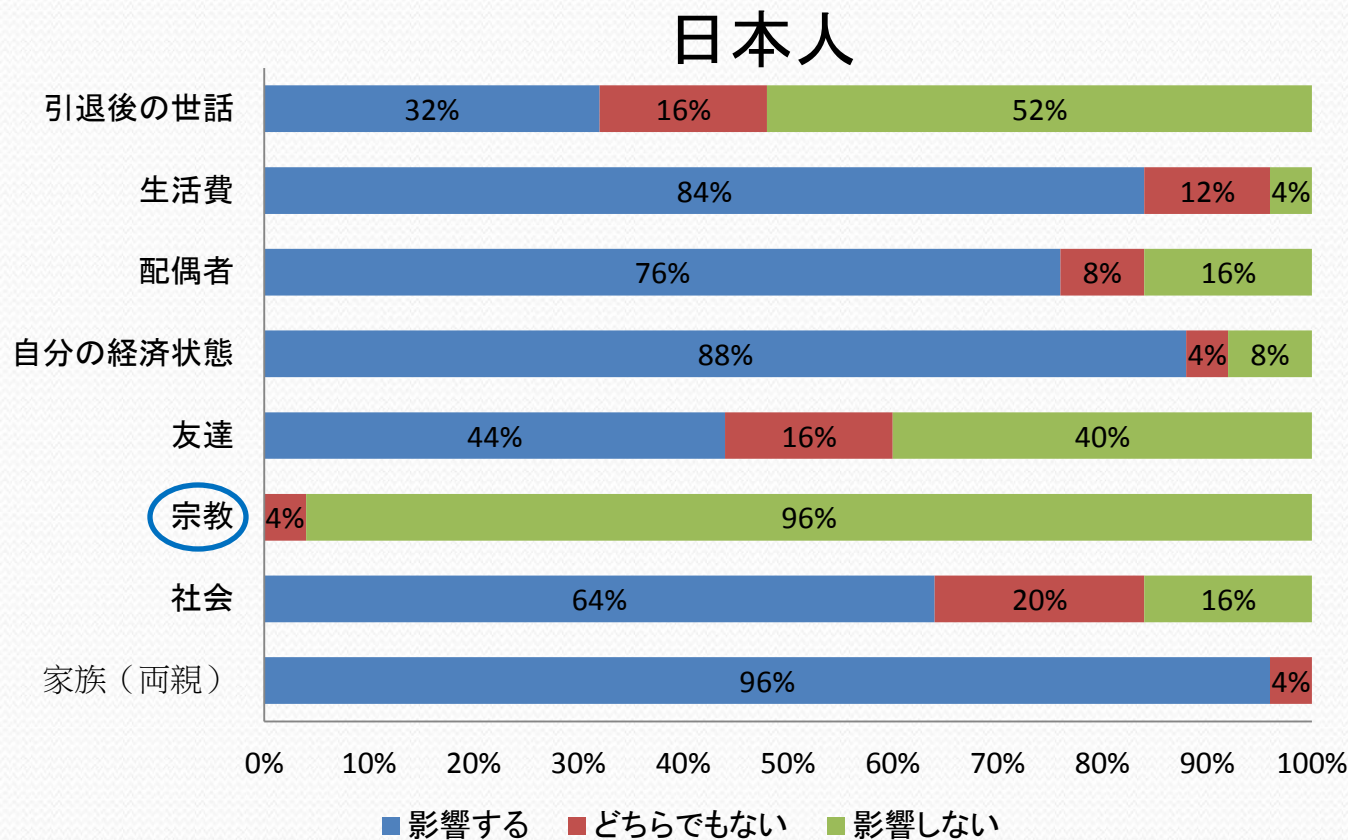
経済的な要因が一番影響を与えている。社会、宗教、と友達はほとんど影響がない

# 子供を持つ事に関する意見に及ぼす要因



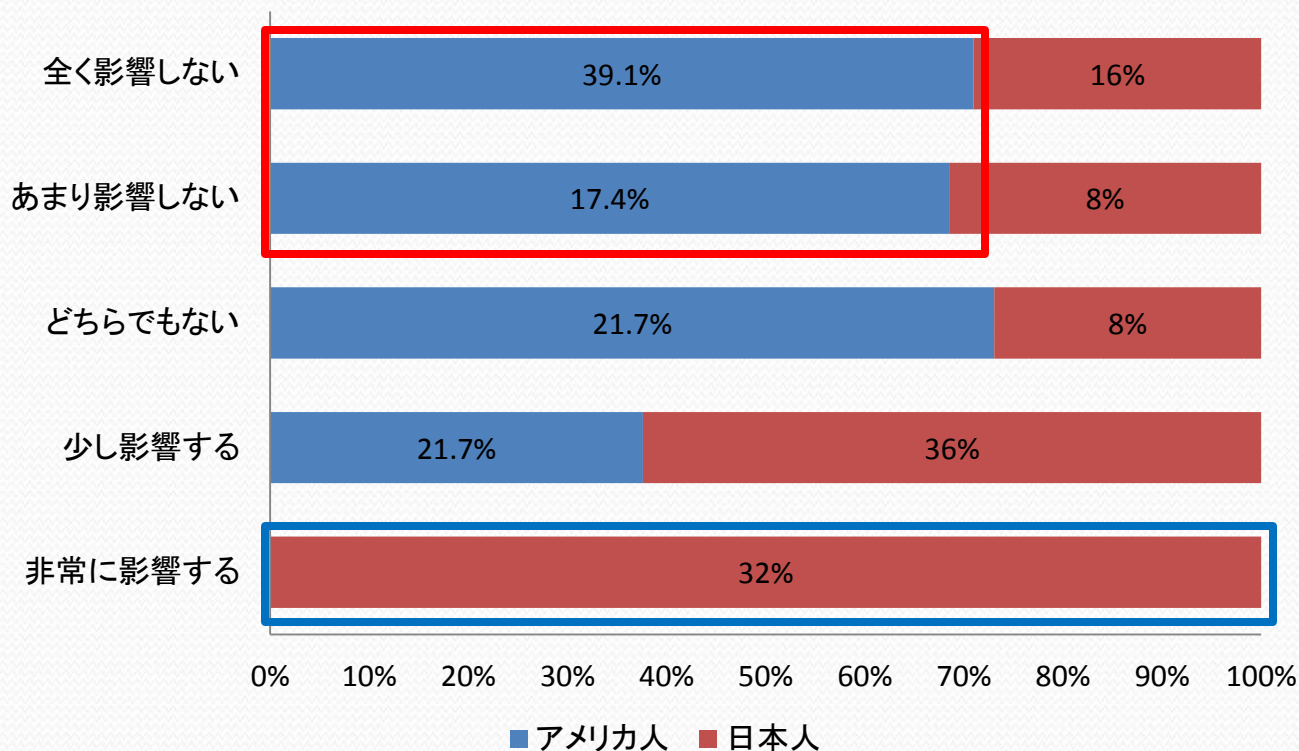
家族が一番で次に経済的要因。宗教はほとんど影響していない

# 子供を持つ事に関する意見に及ぼす要因



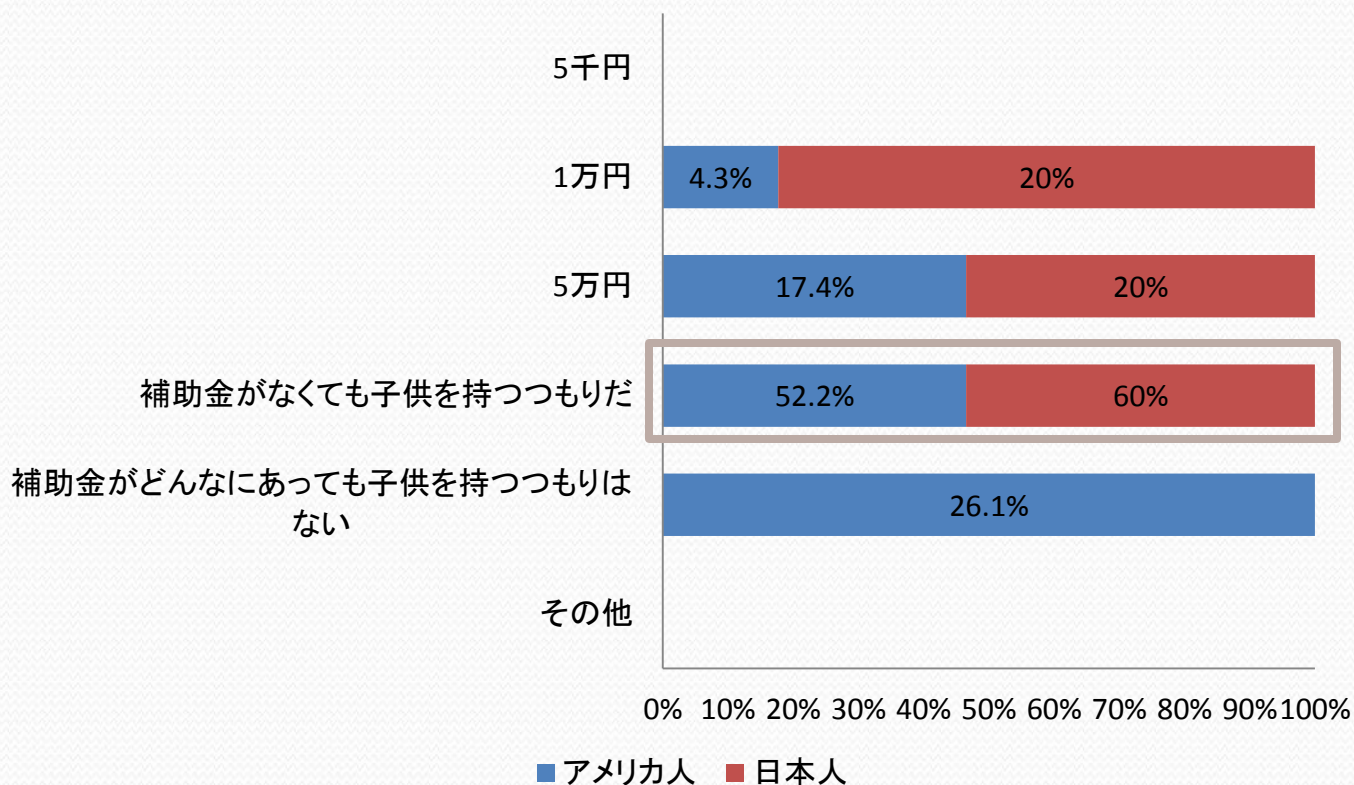
家族が一番で次に経済的要因。宗教はほとんど影響していない

# 子供を持つ事についての政府からの補助金



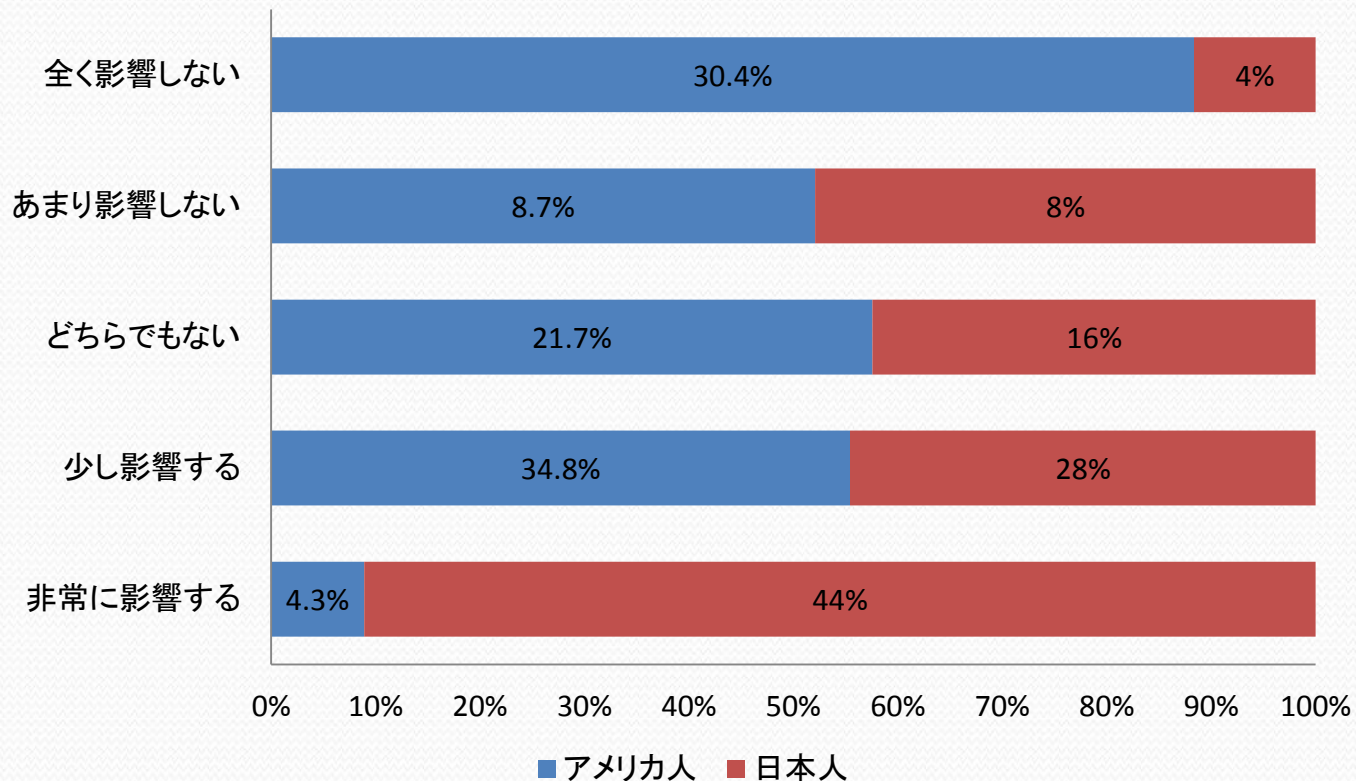
日本人は政府からの補助金にある程度影響されるが、  
アメリカ人のほとんどはあまり影響されない

# 補助金の額が子供を持つ事にどのように影響するか



約半分のアメリカ人と日本人は補助金をもらわなくても子供を持つつもりだと考えている。

# 公立保育所の増加



大半の日本人は公立保育所の増加が影響を及ぼす  
と考えるが、アメリカ人にとってはあまり影響していない

# 研究質問2まとめ

- アメリカ人は日本人より子供を持つ事に何のプレッシャーも感じていない人が多かった
- アメリカ人のほとんどは子供を持つプレッシャーに左右されないが日本人はそのプレッシャーは子供を産むことに良い影響を与えていると思っている
- 経済的な要因がアメリカ人には子供を持つさいに大事な事であるが、日本人は家族からの期待に応えることが大事だ。
- 日本人はある程度政府からの補助金の子供を産む事に影響を感じているが、アメリカ人のほとんどはあまり感じていない

# 結論

- 安定した暮らしが出来れば、日本人は子供を持つ事に問題を感じていない
- 約7割のアメリカ人は子供を持ちたいという気持ちをもっている
- 「子供は絶対欲しくない」と答えたのはアメリカ人のみである
- ほとんどのアメリカ人も日本人も子供を持つ事は学生にとっては最下位だった
- アメリカは経済的な面を子供を持つ際に考えるが、日本人は家族の期待に応えるために子供を持つ傾向がある



# 研究における限界点

- 少数の回答者のため結果が一般化出来ない

# 将来の研究課題

- 社会人もアンケート調査をしたい
- 子供を持つ事が時間を経つと優先順位がどう変わるかを調査したい
- 男性と女性の回答を分けて比較したい

# 参考文献

- Alexy, A. (2011). Tough choices: Bearing an illegitimate child in contemporary Japan. *Contemporary Sociology*, 40(2), 188-189.
- EBERSTADT, N. (2012). Japan shrinks. *The Wilson Quarterly* (1976-), 36(2), 30-37.
- Hales, E. (2014). Can government incentives reverse falling birth rates?. *Deseret News*. Retrieved from <http://national.deseretnews.com/article/1769/can-government-incentives-reverse-falling-birth-rates.html>
- Holloway, S. (2010). *Women and Family in Contemporary Japan*. Cambridge ; New York: Cambridge University Press.
- Rosenberger, N. (2013). *Dilemmas of Adulthood : Japanese Women and the Nuances of Long-term Resistance*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Wakabayashi, D. (2009). Baby Bundle: Japan's Cash Incentive for Parenthood. *The Wall Street Journal*. Retrieved from <http://online.wsj.com/articles/SB125495746062571927>
- Yamada, M. (2012). Japan's Deepening Social Divides Last Days for the "Parasite Singles." *Nippon.com*. Retrieved from <http://www.nippon.com/en/in-depth/a01002/>

# メディアリソース

The World Bank:

<http://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN/countries/JP?display=graph>

Index Mundi. Birth Rate:

<http://www.indexmundi.com/facts/indicators/SP.DYN.CBRT.IN/compare?country=jp#country=jp:us>

# 謝辞

- 齋藤-アボット佳子教授
- 関根繁子教授
- 岩田比奈
- 今年卒業する日本語専攻のクラスメート達
- 翻訳の手伝いをしてくださった日本人の友達
- 家族